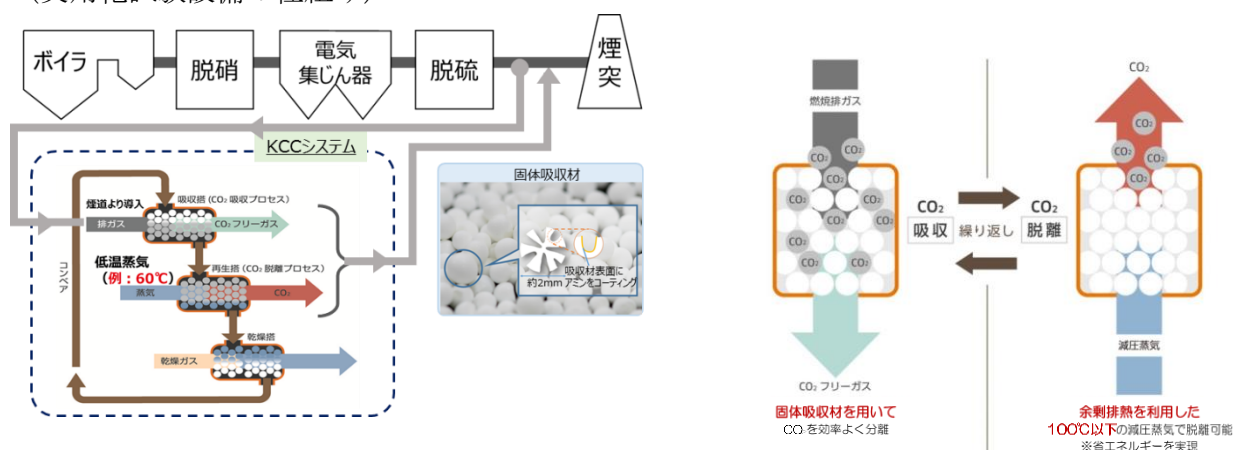


実用化試験の概要

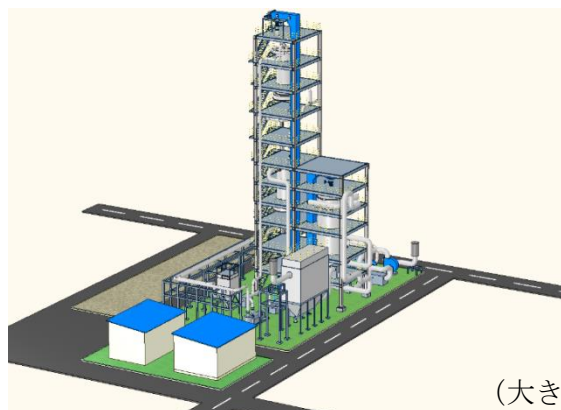
[実用化試験の概要]

- ・事業名称：経済産業省「CO₂分離・回収技術の研究開発事業」
- ・事業期間：平成27年度～（実用化試験は平成31年以降）
- ・実施者：RITE（固体吸収材の開発担当）
川崎重工（分離・回収システムの開発担当）
関西電力（分離・回収システムの評価担当）
- ・装置構成：発電所の煙道から排出ガスを抜き取り、川崎重工が開発したKCC移動層システム^{※1}によりCO₂を分離・回収^{※2}する。KCC移動層システムにはRITEが開発したCO₂用固体吸収材^{※3}を活用する。
 - ※1：固体吸収材を移動させることにより、吸収効率を向上させることが可能となるため、大型化に適したシステム。
 - ※2：今回の試験では、回収したCO₂は再度煙道へ戻す。
 - ※3：従来の高性能アミン吸収液と類似のCO₂吸収特性を有しながら、再生工程で顕熱や蒸発潜熱に消費されるエネルギーの大幅低減が期待できる。

(実用化試験設備の仕組み)



(実用化試験設備（40トン／日CO₂／日プラント）のイメージ)



(大きさ：縦 約23m×横 約53m×高さ 約40m)

(舞鶴発電所概要)

ユニット	営業運転開始	出力	発電方式	使用燃料
1号機	平成16年8月	90万kW	汽力発電	石炭
2号機	平成22年8月	90万kW	汽力発電	石炭

住所：京都府舞鶴市字千歳560番地5

(http://www.kepcoco.jp/energy_supply/energy/thermal_power/plant/maizuru.html)